# 取扱説明書



# JANOME

# 安全上のご注意

- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方やほかの人々への危害や損害を未然に 防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.



# ◎お取り扱いについてのお願い

#### ◇ ご使用の前に

- ① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



#### ◇ いつまでもご愛用いただくために

- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。



③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。



# ◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(62~64ページ)にしたがって点検・調整を行ってください。

◎各部のなまえ	•••••	3
◎標準付属品と収納場所	. 4 ~	~ 5
●標準付属品		4
●早見板	•••••	5
<ul> <li>● 収納場所(補助テーブル)</li> </ul>	•••••	5
★ ノリーアームの使い方		5
◎操作方法	6~	25
●電源のつなぎ方	6~	~ 7
★スタート/ストップボタンを使用する場合	ì	6
★ ノットコントローフーを使用する場合	•••••	/
● 迷さの詞即	•••••	ס א
★フットコントローラー		8
<ul> <li>●操作ボタン</li> </ul>	.9~	10
<ul> <li>●表示画面の説明</li> </ul>		. 11
<ul> <li>● 模様の選び方</li> </ul>	•••••	. 12
<ul> <li>●押さえ上げ</li> <li>●押さえの知りました</li> </ul>	•••••	. 12
●押さえの外し方・付け方	•••••	. 13
● 押さえ ボルターの外し D・13 D D	•••••	. 13 13
<ul> <li>● 糸調子ダイヤル</li> </ul>	14 ~	· 15
★バランスのとれた糸調子(直線模様)		. 14
★バランスのとれた糸調子(ジグザグ模様)		. 15
●送り歯ドロップつまみ	•••••	. 16
●針の取りかえ方	•••••	. 17
● 布に適した糸や針を選ぶ自安	•••••	. 1/
● 補助糸立て棒の使い方	•••••	. 10 18
●ボビンの取り出し		. 18
<ul> <li>●ボビンに下糸を巻く</li> </ul>		. 19
●ボビンのセット		. 20
●上糸かけ	21~	<sup>,</sup> 22
★ 糸通しの使い方	•••••	. 22
● 下糸を針板の上に引さ出9場台	04 -	. 23
<ul> <li>● ミノノの設定</li></ul>	<u>2</u> 4 · °	23
<ul> <li>★ 停針位置の設定</li> </ul>		. 25
	6 -	50
● GU 1/J Z	0~	<b>50</b>
● 国禄GGU 1	20 / ~	21
<ul> <li>★ 厚手の布端のぬい始め</li> </ul>		. 26
<ul> <li>★ ぬい方向の変更</li> </ul>		. 27
★ぬい終わり		. 27
●糸切り記憶		. 27
●針板ガイドライン	•••••	. 28
★コーナーリンクカイド	•••••	. 28
● 虹位直をかえるとさ(単線状候体) ● めい日のあらさをかえるとき(直線状構样)	•••••	. 29
	30 ~	. 29 • 31
<ul> <li>★自動返しぬい</li> </ul>		. 30
★自動止めぬい		. 30
★三重ぬい		. 30
★ 伸縮ぬい		. 31

	シグザグぬい	$.31 \sim 32$
	★ ぬい目の幅をかえるとき	
	★ぬい目のあらさをかえるとき	
	ジグザグぬいのたち目かがり	
	つくろいぬい	
	トリコットぬいのたち目かがり	
	かがりぬい	
	ーニットかがり	
	●ゴムひも付け	35
	・ボタンホール	35
	★ボタンホールの種類	35
	入クエアボタンホールのぬい	$.36 \sim 39$
	★ぬい目の幅(ボタンホールの幅)をかえ	る 38
	★ぬい目のあらさをかえる	
	●キーホールボタンホールのぬい	39
	▶ 片ラウンドボタンホールのぬい	
	●ボタンホール安定板セットを使用する場合	40
	●芯入りスクエアボタンホールのぬい	41
	●つくろいぬい(ダーニング)	
	かんぬき止め	43
	●アイレット	
	ファスナー付け	$.45 \sim 47$
	まつりぬい	
	●ボタン付け	
	●ギャザー	
©₿	布りぬい	$51 \sim 59$
	-	
	パッチワーク	
	<ul> <li>●パッチワーク</li> <li>★ 角度日盛り</li> </ul>	51 51
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> </ul>	51 51 52
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> </ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> </ul>	51 51 52 53 54
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> </ul>	51 52 53 54 54
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> </ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> </ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> </ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>キャンドルウィック</li> </ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>キャンドルウィック</li> <li>スカラップ</li> </ul>	51 52 53 54 54 55 55 56 56 56
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>プリンジ</li> <li>ブロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>キャンドルウィック</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> </ul>	51 52 53 54 54 55 55 56 56 56 57
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> </ul>	51 52 52 53 54 54 55 55 56 56 56 57 58
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ブロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>キャンドルウィック</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション</li> </ul>	51 52 53 54 54 55 56 56 56 56 56 56 58 )58
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ブロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> </ul>	51 52 52 53 54 54 55 55 56 56 56 56 57 58 )58 59
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>プリンジ</li> <li>ブロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> <li>模様の形の整え方 (送り調整ねじ)</li> </ul>	51 52 52 52 54 54 55 55 56 56 56 56 57 58 )58 59 59
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>スモッキング</li> <li>滚着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> <li>模様の形の整え方 (送り調整ねじ)</li> <li>ミシンのお手入れ</li> </ul>	51 52 52 53 54 54 55 55 56 56 56 56 56 57 58 )58 )58 59 59 59 59
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ブロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スモッキング</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> <li>模様の形の整え方 (送り調整ねじ)</li> <li>シンのお手入れ</li> </ul>	51 52 53 54 54 55 56 56 56 56 56 56 57 58 )58 59 59 59 
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ブロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スモッキング</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> <li>酸枝様</li> <li>模様の形の整え方 (送り調整ねじ)</li> <li>シンのお手入れ</li> <li>内がまと針板の組み付け</li> </ul>	51 52 53 54 54 55 56 56 56 56 56 56 56 56 58 )58 )59 59 59 60 60
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様のし、(サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能(エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> <li>検様の形の整え方(送り調整ねじ)</li> <li>シンのお手入れ</li> <li>かまと送り歯の掃除</li> <li>内がまと針板の組み付け</li> <li>たんなときには</li> </ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>飾り模様</li> <li>模様の形の整え方 (送り調整ねじ)</li> <li>シンのお手入れ</li> <li>かまと送り歯の掃除</li> <li>内がまと針板の組み付け</li> <li>よッセージ画面が表示された場合</li> </ul>	51 52 52 52 54 54 55 56 56 56 56 56 56 56 57 58 )58 )58 59 60 60 60 61
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>キャンドルウィック</li> <li>スカラップ</li> <li>スモッキング</li> <li>ਕ着模様のし、(サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能(エロンゲーション)</li> <li>節り模様</li> <li>レマのお手入れ</li> <li>かまと送り歯の掃除</li> <li>内がまと針板の組み付け</li> <li>メッセージ画面が表示された場合</li> <li>ブザー音の種類</li> </ul>	51 52 52 54 54 55 56 56 56 56 56 56 56 56 58 )58 )58 )59 60 60 61 61
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li> <li>シェルタック</li> <li>アップリケ</li> <li>ピンタック</li> <li>フリンジ</li> <li>ドロンワーク</li> <li>クロスステッチ</li> <li>ファゴティング</li> <li>スモッキング</li> <li>スモッキング</li> <li>密着模様ぬい (サテン)</li> <li>★模様の長さ調節機能 (エロンゲーション)</li> <li>節り模様</li> <li>酸枝様</li> <li>検核の形の整え方 (送り調整ねじ)</li> <li>シンのお手入れ</li> <li>かまと送り歯の掃除</li> <li>内がまと針板の組み付け</li> <li>メッセージ画面が表示された場合</li> <li>ブザー音の種類</li> <li>ミシンの調子が悪いときの直し方</li></ul>	
	<ul> <li>パッチワーク</li> <li>★角度目盛り</li></ul>	51 52 53 54 54 55 55 56 56 56 56 56 56 56 56 57 58 58 59 59 <b></b> 58 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 50 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 59 <b></b> 50 59 <b></b> 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 59 <b></b> 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50



# ◎各部のなまえ

- ① 糸案内
- 2 糸巻き糸案内
- ③ 糸こま押さえ(大)
- ④ 糸立て棒
   ⑤ 補助シュア
- ⑤ 補助糸立て棒取り付け穴
- 6 糸巻き軸
   ⑦ ボビン!<sup>1</sup>
- ⑦ ボビン押さえ
   ⑧ 表示画面
- ③ 衣小画画

  ⑨ 設定ボタン
- 10 模様ダイレクト選択ボタン
- ① 早見板
- 12 スピードコントロールつまみ
- 13 糸切りボタン
- ⑭ 上下停針ボタン
- ⑮ 止めぬいボタン
- ⑯ 返しぬいボタン
- ① スタート/ストップボタン
- (1) 補助テーブル (アクセサリー入れ)
- 19 糸切り
- 20 面板
- 20 糸調子ダイヤル
- 22 押さえ圧調節ダイヤル
- 23 天秤
- 24 アーム糸案内
- ② 針止めねじ
- 20 金 か は 本 か け
- ② 針
- 29 角板解放ボタン
- 30 角板
- ③ カッター(下糸切り用)
- 32 針板
   33 送り歯
- 34) 押さえホルダー
- ③ 押さえホルダー止めねじ
- 36 レバー
- ③ 糸通しレバー
- 38 手さげハンドル
- ③ ボタンホール切りかえレバー
- ④ フリーアーム
- ④ 送り歯ドロップつまみ
- ④ 押さえ上げ
- ④ 電源プラグ
- ④ フットコントローラープラグ受け
- ④ 電源スイッチ
- 46 通風口
- ④ はずみ車
- 🐵 送り調節ねじ
- ※ ミシンを持つときは、片手で手さげハンドルを持ち、 もう片方の手でミシンをささえてください。
- ※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更す る場合がありますので、ご了承ください。



# ◎標準付属品と収納場所

# ● 標準付属品

- 基本押さえ A ※ミシンの押さえホルダーに付いています。
- ファスナー押さえ E
- ③ サテン押さえ F
- ④ ボタンホール押さえ R
- ⑤ 安定板
- ⑥ 安定板ホルダー
- ⑦ まつりぬい押さえ G
- ⑧ たち目かがり押さえC
- ふちかがり押さえ M
- 10 糸こま押さえ(大)(2個)※1つはミシンの糸立て棒に付いています。
- ① 糸こま押さえ(小)(2個)
- 12 補助糸立て棒
- 13 ボビン (4個)
  - ※1つはミシンの内がまに入っています。
- ⑭ 針ケース
  - •14番(2本)
  - •11番(2本)
  - ブルー針〔11 番〕(1 本)
- 15 シームリッパー
- 16 ミシンブラシ
- 1 ドライバー
- 18 取扱説明書
- 19 説明 DVD
- ② ミシンカバー※モデルによりオプションになります。
- ② フットコントローラー※モデルによりオプションになります。







# ● 早見板

早見板③は、ミシンの右側に格納されています。

タブ①を右に引き出し、模様の番号と模様に適した押さ え②を確認します。

# ● 収納場所(補助テーブル)

補助テーブル①を取り付けると、広いテーブルでぬうこ とができます。

また、フリーアーム ② を使うときは、補助テーブルを左 に引いて簡単に取り外すことができます。

# 【補助テーブルの外し方・取り付け方】

補助テーブル①の下側に手をかけ、左に引いて外します。

取付けるときは、フリーアーム②に沿わせて、ピン③ を本体の穴④に入れて取り付けます。

# 【小物の収納】

補助テーブルを開けると、押さえなどの小物が収納でき ます。 ⑤ 小物入れ

★ フリーアームの使い方 補助テーブルを外すとフリーアーム①になります。 そでぐちやすそなどのぬい、およびふくろ物のくち端の 始末に利用します。



![](_page_8_Figure_0.jpeg)

- ★ フットコントローラーを使用する場合
- ※ フットコントローラーは、モデルによりオプションに なります。
- 電源スイッチ①を「OFF」(切)にします。
- フットコントローラープラグ②をフットコントロー ラープラグ受け③に差し込みます。
- 3 電源コードを引き出し、電源プラグ④をコンセント⑤ に差し込みます。
- ④ 電源スイッチ①を「ON」(入)にします。

※ フットコントローラー ⑥ を接続しているあいだ、表 示画面にフットコントローラー表示 ⑦ が点灯します。

![](_page_9_Picture_0.jpeg)

![](_page_9_Picture_1.jpeg)

# ● 速さの調節

ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコン トローラーで調節します。

#### ★ スピードコントロールつまみ

スピードコントロールつまみは、スタート / ストップボ タン使用時のぬう速さを調節できます。

つまみの位置が右側になるほど速くなります。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントロー ラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節で きます。

#### ★ フットコントローラー

フットコントローラーの踏みかげんで、ぬう速さが調節 できます。

- 深く踏む→速くなる
- 浅く踏む→遅くなる
- ※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置(最高速)にして、踏みかげんで調節します。 初心者の方が細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

# ▲ 警告

- フットコントローラーの上に物を置かないでください。けがや故障の原因となります。
- フットコントローラーを使用する場合、周辺に糸く ずやほこりがないことを確認してください。
   動作不良を起こし、けが・故障の原因となります。

![](_page_10_Picture_0.jpeg)

# ● 操作ボタン

① スタート/ストップボタン

スタート/ストップボタンを押すと、ミシンはゆっくり 動きはじめ、スピードコントロールつまみでセットした 速さになります。(スロースタート機能)

もう一度押すとミシンは止まります。通常は針が下の位 置で止まります。

- ※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けているあいだ(手をはなすまで)、ミシンは低速で動きます。
- ※ フットコントローラーを接続している場合、スタート/ ストップボタンは使用できません。
- ※ ミシンを停止したとき、通常は針が下の位置で止まり ますが、上の位置で止まる設定にもできます。 (「停針位置の設定」25ページ参照)

② 返しぬいボタン 以下の模様をぬっている場合:

**01 04 07 08** ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

《ミシン停止中》

(フットコントローラーを接続していない場合のみ) ボタンを押しているあいだは低速で返しぬいを行い、指 をはなすとミシンは止まります。

《ミシン運転中》

ボタンを押しているあいだは返しぬいを行い、指をはな すと前進ぬいにもどります。

#### そのほかの模様をぬっている場合:

ぬい途中にボタンを押すと、その位置でほつれ止めの止 めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつ れ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

02 03 22 23 ※ 模様 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ の場合、返しぬいボタンは特殊な 使い方になります。(30、42、43ページ参照)

#### ③ 止めぬいボタン

#### 以下の模様をぬっている場合:

01 04	07 08
	<b>≷</b> ^

止めぬいボタンを押すと、その位置でほつれ止めの止め ぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

ミシンの停止中に押した場合、運転再開後、その位置でほ つれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

#### そのほかの模様をぬっている場合:

ぬい途中に止めぬいボタンを押すと、押したときの模様 を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシ ンは自動的に止まります。

ミシンが停止中に押した場合、運転再開後、ボタンが押 されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止め ぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を1つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。

![](_page_11_Figure_0.jpeg)

# ④ 上下停針ボタン

ミシンが止まっているときにボタンを押すと、針の位置を 移動できます。針の位置が下にあるときは上に、上にある ときは下に移動します。

※ ミシンを停止したとき、通常は針が下の位置で止まり ますが、上の位置で止まる設定にもできます。 (「停針位置の設定」25ページ参照)

# ⑤ 糸切りボタン

ぬい終わったあとに糸切りボタンを押すと、上糸と下糸 が自動的に切られます。

針が布にささった状態でも、糸切りボタンを押すと針は 上の位置に移動します。

糸切り後、下糸を針板の上に引きあげないで、そのまま の状態でぬうことができます。

糸切り中は糸切り表示⑦が点滅します。

# <u>糸切りの注意事項 :</u>

- 30 番および 30 番より太い糸や特殊な糸を切る場合、ミシンの面板に付いている糸切りを使用します。 (「面板の糸切りの使い方」27 ページ参照)
- 糸残りが少ない糸こまは使用しないでください。
   糸がらみの原因となります。
- 糸切り部の掃除をときどき行ってください。
   糸切り部に糸くずがたまると故障の原因となります。(「ミシンのお手入れ」60ページ参照)
- 糸が切れずにからまってしまった場合、針板を外し、 からまった糸を取り除いてください。 (「ミシンのお手入れ」60ページ参照)

⑥ スピードコントロールつまみ

スタート / ストップボタン使用時のぬう速さを調節しま す。(「スピードコントロールつまみ」8 ページ参照)

![](_page_12_Figure_0.jpeg)

![](_page_12_Figure_1.jpeg)

#### ● 表示画面の説明

表示画面には、以下の表示がされています。

① 模様の代表的なぬいに使用する、押さえの記号

- ② 選んでいる模様の番号
- ③模様に適した、ぬい目の幅の値
- ④ 模様に適した、ぬい目のあらさの値

模様番号 ①、ぬい目の幅 ③、ぬい目のあらさ ④ が各設 定ボタンで変更できます。

# <u>画面のちらつきについて :</u>

表示画面がちらつく場合がありますが、電子レンジな どの機器の磁場、静電気などによる液晶画面特有の現 象で故障ではありません。

磁場や静電気を発生する機器の近くでは、ミシンを使 用しないでください。

#### ① 模様番号選択ボタン

「◀」または「▶」ボタンを押し、模様番号を選びます。 (12ページ参照)

#### ② ぬい目の幅調節ボタン

「+」または「-」ボタンで、針位置やぬい目の幅を調節します。(29、32、38ページ参照)

#### ③ ぬい目のあらさ調節ボタン

「+」または「-」ボタンで、選択した模様のぬい目のあら さを調節します。(29ページ参照) ボタンホールの密度、つくろいぬいの形の調整、アイレッ トのサイズを調整することもできます。 (39、42、44ページ参照)

# ④ 糸切り記憶ボタン

ボタンを押すと、模様をぬい終わったあと、自動的に糸 が切られます。(27ページ参照)

#### 5 模様のながさボタン

サテン模様のぬい目のあらさを変えず、模様の長さを変 えられます。(58ページ参照)

#### ⑥ 模様ダイレクト選択ボタン

01~20の模様を直接選びます。(12ページ参照)

![](_page_13_Figure_0.jpeg)

![](_page_13_Picture_1.jpeg)

# ● 模様の選び方

# 【模様番号選択ボタンで選ぶ】

模様番号選択ボタン(「◀」 または「▶」)① を押し、 模様番号 ② を選びます。

ぬえる模様は、「模様一覧表」(65 ページ参照)または、 模様ダイレクト選択ボタン ③ とミシン右側に格納されて いる早見板(5 ページ参照)で確認できます。

# 【模様ダイレクト選択ボタンで選ぶ】

模様ダイレクト選択ボタン ③ で、01 ~ 20 の模様を直接 選びます。

# ● 押さえ上げ

押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。 押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげるこ ともでき、厚い布を入れるときなどに利用できます。

- 押さえ上げ(さげた位置) ぬうときなど
- ② 普通にあげた位置 布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの交換 のときなど
- ③ さらにあげた位置(固定することはできません。) 厚い布を入れるときなど

※ 押さえ上げをさげないでミシンをスタートさせた場合、安全装置がはたらきミシンをスタートできません。 このとき、画面の押さえ表示④が点滅します。 押さえ上げをさげてミシンをスタートさせてください。

![](_page_14_Picture_0.jpeg)

![](_page_14_Figure_1.jpeg)

![](_page_14_Picture_2.jpeg)

# ● 押さえの外し方・付け方

![](_page_14_Picture_4.jpeg)

- 押さえを交換する場合、必ず電源スイッチを切って ください。けがの原因となります。
- ・押さえは模様に合ったものを使用してください。 押さえが合っていないと針が押さえにあたり、けがの原因となります。

   1 押さえ記号

# 【押さえの外し方】

押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバー ② をうしろ 側から手前に押して、押さえを外します。

※ レバー ② を上から押さないでください。故障の原因 となります。

# 【押さえの付け方】

押さえのピン④を押さえホルダーのみぞ③に合わせて、 押さえ上げを静かにおろします。

# ● 押さえホルダーの外し方・付け方

# ▲ 注意

押さえホルダーの取り外し・取り付けを行う場合、必 ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となり ます。

押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外し ます。

# 【押さえホルダーの外し方】

押さえホルダー止めねじ ① をドライバー ③ で左にまわ して外し、押さえホルダー ② を外します。

# 【押さえホルダーの付け方】

押さえホルダー止めねじ① を押さえホルダーの穴④ に 通します。押さえホルダー止めねじ① をドライバー③ で右にまわし、押さえホルダー② を押さえ棒⑤ に取り 付けます。

# ● 押さえ圧調節ダイヤル

布地の厚さや特殊なぬい方によって、押さえ圧調節ダイ ヤル①をまわして押さえ圧を調節します。

小さな数字ほど押さえ圧は弱くなります。

下記をめやすに合わせます。

- 薄物地は「1」~「3」
- 普通地は「3」~「6」
- 厚物地は「5」~「6」
- ※ 伸縮性の布地をぬうときや、アップリケなどぬいしろ 部分が重なりあうものをカーブしてぬうときなど、ぬ いずれしやすい場合、押さえ圧を「1」~「3」に合わ せます。

![](_page_15_Figure_0.jpeg)

# ● 糸調子ダイヤル

通常は、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線 ③ に合わ せると、上糸 ① と下糸 ② がバランス良くぬえるように自 動的にセットされます。

# ★ バランスのとれた糸調子(直線模様)

直線ぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、上 糸 ① と下糸 ② が布のほぼ中央で交わります。 糸調子ダイアルをまわすと、糸調子は下記のように変化 します。

- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなります。④
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなります。⑤

糸や布の種類などによって、「オート」の位置で糸調子の バランスがとれない場合、下記の方法で調節します。
※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたな くなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

# 【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸 ① が強すぎると、下糸 ② が布の表 ⑤ に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわし、小さな数字を指示線 ③ に合わ せます ④。

# 【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸 ① が弱すぎると、上糸 ① が布の裏 ④ に引き出されます。

糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線 ③ に合わせます ⑥。

# 布地の裏がタオル地のようになる場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル 地のようになるのは、上糸の調子が弱いか、上糸のか け方が間違っています。 上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してく ださい。(「上糸かけ」21ページ参照)

![](_page_16_Figure_0.jpeg)

![](_page_16_Figure_1.jpeg)

![](_page_16_Figure_2.jpeg)

# ★ バランスのとれた糸調子(ジグザグ模様)

ジグザグぬいの場合、糸調子のバランスがとれていると、 布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

- ①布の表
- ② 布の裏

糸や布の種類などによって、「オート」の位置で糸調子の
バランスがとれない場合、糸調子ダイヤルで調節します。
※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

# 【上糸が強すぎる場合の調節】

上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。 糸調子ダイヤルをまわし、小さな数字を指示線に合わせ ます。

① 布の表

② 布の裏

# 【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。 糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わ せます。

- ①布の表
- ② 布の裏

![](_page_17_Figure_0.jpeg)

# ● 送り歯ドロップつまみ

ドロップつまみで送り歯を常時さげた状態にし、布送り 機能をなしにすることができます。 ボタン付けなどを行うときに使用します。

- ① 送り歯をさげる位置
- ② 送り歯をあげる位置

※ 送り歯をさげた場合、ぬい終わったら、ドロップつま みを「送り歯をあげる位置」② にもどし、はずみ車 を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

![](_page_18_Figure_0.jpeg)

#### ● 針の取りかえ方

# ▲ 注意

針を交換する場合、必ず電源スイッチを切り、電源プ ラグをコンセントから抜いてください。 けがの原因となります。

- はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げ をさげます。
- ② 針止めねじ① を手前に1~2回まわしてゆるめ、針を外します。

③ 交換する針の平らな面 ② を向こう側に向け、差し込みます。
 差し込むとき、針を停止ピン ③ にあたるところまで

押しあげます。針止めねじをドライバーでまわし、針をしっかり止めます。

※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができな いだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

# 【針の調べ方】

針と平らな面のすきま ④ が針先まで均等に見えるのが良い針です。

針先が曲がったり、つぶれたりしているものは使わない でください。

布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9番~11番
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	絹糸 50 番 綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番〜 90 番	11 番~ 14 番
		綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツィード	絹糸 50 番 綿糸 40 番~ 50 番 ポリエステル 40 番~ 50 番	14 番~ 16 番
	コート地	ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

- ※ 通常、上糸と下糸は同じものを使用してください。
- ※ 伸縮性のある布(ジャージー、トリコットなど)など目とびしやすい布地は、ブルー針(11 番)(柄の部分が青色 の針)を使用すると、目とびの防止効果があります。

# ● 布に適した糸や針を選ぶ目安

![](_page_19_Picture_0.jpeg)

![](_page_19_Picture_1.jpeg)

![](_page_19_Picture_2.jpeg)

# ● 糸こまのセット

糸立て棒 ① を軽くおこし、糸の端が糸こま ② の下から 手前に出るように糸こま ② を向けます。

糸こま ② を糸立て棒 ① に入れ、糸こま受け ④ につき あてます。

糸こま押さえ ③ を押しつけて、糸こま ② を押さえます。
※ 普通の糸こまには糸こま押さえ (大) ③ を、小さい 糸こまには糸こま押さえ (小) ⑤ を使います。

![](_page_19_Picture_7.jpeg)

付属の補助糸立て棒 ① は、ミシンに付いている糸立て 棒に糸こまをセットした状態のまま別の糸こまで糸巻き をするときに使います。

補助糸立て棒①の先端を糸巻き糸案内の方に向けて、 補助糸立て棒取り付け穴②に差し込みます。

正しい位置に差し込んだ場合、補助糸立て棒 ① は回転 しないで固定されます。

糸こまの向きや固定方法は、上記「糸こまのセット」と 同じです。

- ※ 補助糸立て棒の先端は糸巻き糸案内の方に向けてくだ さい。
- ※ ミシンカバーなどに収納する場合、補助糸立て棒は外 します。

# ● ボビンの取り出し

押さえ上げをあげ、角板開放ボタン①を右へずらして 角板②を外します。

ボビン③を取り出します。

# <u>お願い</u>

ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用して ください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)

![](_page_19_Figure_19.jpeg)

![](_page_20_Figure_0.jpeg)

![](_page_21_Figure_0.jpeg)

● ボビンのセット

# ▲ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッ チを切ってください。けがの原因となります。

- 糸の端①がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向け(糸が左巻き)、ボビンを内がま②に入れます。
  - ※ ボビンから引き出される糸の状態の図が、角板 ③ に表示されています。
- ② ボビンが回転しないよう、ボビンを右手で軽く押さえます。
   糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞ④にかけ、さらに手前のつの⑤の下をくぐらせます。
- ※ 各部に糸を確実にかけるため、下記の手順 ④ が終了 するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってくだ さい。
- 3 つのの下をくぐらせた糸を矢印 1 の方向に引きあげて 矢印 1 の右側のみぞ ⑥ に入れます。

- ※ 手順 2 で、内がまの手前のみぞに糸 7 がかかってい ない場合、内がまの板ばね 8 のあいだに糸 7 が入ら ず、ボビンから直接矢印 1 の右側のみぞに通ってしま います。(左図、【B】参照) その場合は手順 2 からかけ直します。
- ※ 糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因とな ります。
- ④ そのままみぞ⑨にそって矢印2の方向に糸を通します。
   下側のカッター ⑩ に糸をかけ、右に水平に引いて切ります。

- ⑤ 角板 ③ を左側から合わせて取り付けます。
- ※ 通常は、下糸はこの状態のままでぬい始めることができます。 めい始めに下糸を針板の上に引き出す必要があるとき

は、23 ページの「下糸を針板の上に引き出す場合」 をごらんください。

![](_page_22_Figure_0.jpeg)

![](_page_23_Figure_0.jpeg)

![](_page_24_Figure_0.jpeg)

● 下糸を針板の上に引き出す場合

ギャザーやスモッキングなど、ぬい始めの下糸を長くす る必要がある場合、下記手順で下糸を針板の上に引き出 します。

自動糸切り後や、ボビンを内がまにセットしたあとは、 下糸を引きあげずにぬうことができます。

- 「ボビンのセット」(20ページ参照)の手順1~3
   と同じ方法で下糸1を矢印1の方向に引きあげ、 みぞ2に入れます。
   そのまま10 cm ほど向こう側に引き出し、角板3を 取り付けます。
  - ※ 下糸 ① は、下側にあるカッター ④ で切らないで ください。
- 2 針に上糸 ⑤ を通し、押さえ上げをあげた状態で、上 糸 ⑤ の端を指で押さえておきます。

3 電源スイッチを入れ、上下停針ボタン⑥を押して針をさげ、もう一度上下停針ボタン⑥押して針をあげます。

上糸⑤を軽く引くと下糸①の輪が引き出されます。

 ④ 上糸と下糸を押さえの下にして、約 10 cm うしろに そろえて引き出します。

![](_page_25_Figure_0.jpeg)

![](_page_25_Figure_1.jpeg)

# ● ミシンの設定

以下の設定を行います。

- ブザー音の設定
- ミシン停止時の針位置の設定

# 【設定方法】

① 電源スイッチ ① を切ります。

② 上下停針ボタン ② を押したまま、電源スイッチ ① を 入れます。

ブザー音設定画面が表示されます。

- ※ 設定画面が表示されるまで、上下停針ボタン②を 押し続けます。設定画面が表示されなかった場合、 もう一度電源スイッチを切ってやり直します。
- ※ 各設定は、スタート/ストップボタンを押して確定します。設定の途中でスタート/ストップボタンを押さずに電源スイッチを切った場合、設定は確定されず、ミシンは元の状態のままとなります。

# ★ ブザー音の設定

ボタンを押したときに鳴るブザー音など、正しい操作を したときの受け付け音を「ブザー音あり」(初期の状態) から「ブザー音なし」に変更できます。

※ 初期の状態は、「ブザー音あり」に設定されていて、 「on」の表示が点滅しています。

上記【設定方法】で、ブザー音設定画面を表示させます。

- ブザー音をなしに設定する場合、ぬい目のあらさ調節 ボタン①の「+」ボタンを押し、「oF」を点滅表示さ せます。
  - ※「ブザー音なし」に設定した場合も、禁止や警告な どのブザー音は鳴ります。
- ご ブザー音をありに設定する場合、ぬい目の幅調節ボタン②の「+」ボタンを押し、「on」を点滅表示させます。

- ③ スタート/ストップボタン ③ を押し確定します。
- ※ スタート/ストップボタン③を押さずに電源スイッ チを切った場合、設定は確定されず、ミシンは元の状態のままとなります。

![](_page_26_Figure_0.jpeg)

#### ★ 停針位置の設定

ミシンを停止したときの針の位置を、「下位置停止」(初 期の状態)から「上位置停止」に変更できます。

【設定方法】(24 ページ参照)で、ブザー音設定画面を 表示させます。

模様番号選択ボタン 「▶」① を押し、ミシン停止時の針 位置設定画面を表示させます。

- ※ 初期の状態は、下位置停止に設定されており、「dn」 が点滅表示されています。
- 1 上位置停止に設定する場合、ぬい目の幅調節ボタン② の「+」ボタンを押し、「UP」を点滅表示させます。

2 下位停止に設定する場合、ぬい目のあらさ調節ボタン③
 の「+」ボタンを押し、「dn」を点滅表示させます。

③ スタート/ストップボタン④を押し確定します。

※ スタート/ストップボタン④を押さずに電源スイッチを切った場合、設定は確定されず、ミシンは元の状態のままとなります。

![](_page_27_Picture_0.jpeg)

![](_page_27_Figure_1.jpeg)

![](_page_27_Picture_2.jpeg)

![](_page_27_Picture_3.jpeg)

# ◎ぬい方

# ● 直線ぬい

- ① 模様番号:
- 01 または 04
- ② 糸調子ダイヤル: オート
- ③ 押さえ: 基本押さえ A

# ★ ぬい始め

- 上糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布 を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にま わして、ぬい始めの位置に針をさします。
  - ※ ボビンをセットしたあとや糸切りボタンで糸を 切ったあと、ぬい始めに下糸を針板の上に引き出 す必要はありません。ただし、上糸は必ず向こう 側に引いて、押さえで押さえます。
- ② 押さえ上げをさげて、スタート/ストップボタン① (フットコントローラー)を押して、ぬい始めます。
- ※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいボタン②を押します。
   また、自動返しぬい模様 <sup>02</sup> や自動止めぬい模様 <sup>03</sup> た使う方法もあります。(30 ページ参照)

# <u>ぬい始めの糸の引き出し方</u>

サテン押さえFやボタンホール押さえRなどのように、 押さえの向こう側(うしろ側)の底があがっていて、 糸を押さえる部分がない場合、ぬい始めの上糸③は、 横方向に引き出して押さえてください。 (イラストはサテン押さえF)

# ★ 厚手の布端のぬい始め

基本押さえ A の黒ボタン ① を押した状態で押さえをさ げると、押さえが水平に固定されます。段差のある布を ぬうときや、布の折り返しをぬうときに便利です。

- 最初のぬい位置に針をさし、基本押さえ A の黒ボタン①を押し込みます。
- ② 黒ボタン①を押したまま、押さえをさげます。 押さえが水平に固定され、段差をスムーズにぬい始め ることができます。
   黒ボタン①から手をはなし、ぬい始めます。
- ※ ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえは自由に動く 状態にもどります。

![](_page_28_Figure_0.jpeg)

# ★ ぬい方向の変更

- 1 布の方向をかえる位置でミシンを止めます。
- ② 布に針がささっていない場合、上下停針ボタン①を 押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
  - ※ 通常はミシンを止めると、針が布にささった状態 で止まります。上の位置で止まる設定にもできま す。(「停針位置の設定」25ページ参照)
- 3 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえをさげて ぬい始めます。
- ※ ぬい位置がずれず、きれいにぬうことができます。

# ★ ぬい終わり

- はい終わりの位置で返しぬいボタン①を押し、数針 返しぬいをしてミシンを止めます。
- 2 糸切りボタン 2 を押して糸を切ります。
  - ※ 糸切り後は下糸を針板の上に引きあげないで、そ のままの状態でぬうことができます。
  - ※ 針が布にささった状態でも、糸切りボタン ② を押 すと針は上の位置に移動します。
- ③ 押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。
   02
   03
- ※ 自動返しぬい模様 📙 や自動止めぬい模様 🖕 でぬっ

ている場合、ぬい終わりの位置で返しぬいボタン① を一度押すと、返しぬいまたは止めぬいをして自動的に ミシンが止まります。(30ページ参照)

# 面板の糸切りの使い方

- 30番および30番より太い糸や特殊な糸を切る場合、
   ミシンの面板に付いている糸切り③を使用します。
- 針と押さえ上げをあげ、布を向こう側に引き出し、
   手前に返すようにして糸を切ります。

# ● 糸切り記憶

糸切り記憶ボタン①を押すと、糸切り表示②が点灯します。

ぬい終わりにほつれ止めぬいが入っている模様は、ぬい 終わってミシンが止まると同時に糸切りが行われます。 そのほかの模様は、ぬい終わりに、返しぬいボタンや止 めぬいボタンでほつれ止めをしてミシンを止めたとき、 ミシンが止まると同時に糸切りが行われます。

※ 糸切り記憶を取り消す場合、糸切り記憶ボタン ① を もう一度押し、画面の糸切り表示 ② を消します。

![](_page_29_Figure_0.jpeg)

![](_page_29_Figure_1.jpeg)

# ● 針板ガイドライン

針板および角板には、布のぬい位置を決めるための便利 なガイドラインが表示されています。

布端をガイドラインに合わせると、布端から正確な位置 をぬうことができます。

針板手前にはそれぞれ 0.65 cm (1/4 インチ)、0.95 cm (3/8 インチ)、1.6 cm (5/8 インチ)のところにガイドラ イン ② があります。

ガイドラインの数字は、ぬい位置(針穴の中央①)から ガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」 で表示しています。

コーナーリングガイド 1.6 cm (5/8 インチ) ③ は布を直 角に回転させるのに非常に便利です。 (下記「コーナリングガイド」参照)

角度目盛り ④ はパッチワークをするときに便利です。 (51 ページ「パッチワーク」参照)

#### ★ コーナーリングガイド

布端から 1.6 cm(5/8 インチ)のところで直角にぬい方 向をかえるときに利用します。 ぬい方向をかえたあと布端から 1.6 cm(5/8 インチ)の 位置をぬうことができます。

- 1 布端 ① がコーナーリングガイド ② のところにきたら ミシンを止めます。
- ② 針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、布を直角に 回転させます。
   布端が針板右側のガイドライン 1.6 cm(5/8 インチ)の位置に合います。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。

![](_page_30_Figure_0.jpeg)

![](_page_30_Figure_1.jpeg)

● 針位置をかえるとき(直線状模様)

初期の状態の針位置は、3.5です。

- ぬい目の幅調節ボタン ① の「+」を押すと、値が大 きくなり、針位置が右に移動します。
- ぬい目の幅調節ボタン①の「-」を押すと、値が小 さくなり、針位置が左に移動します。
- ※ 直線状模様の場合、画面の数値は左の針位置からの距離の目安が表示されています。(単位:ミリメートル) 左針位置 0.0、中央針位置が 3.5、右針位置が 7.0 になります。
- ※ 画面の数値は、0.0 ~ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえるこ とができます。(単位:ミリメートル)

● ぬい目のあらさをかえるとき(直線状模様)

初期の状態のぬい目のあらさは 2.4 です。

- ぬい目のあらさ調節ボタン①の「+」を押すと、値 が大きくなり、ぬい目があらくなります。
- ぬい目のあらさ調節ボタン①の「-」を押すと、値 が小さくなり、ぬい目が細かくなります。
- ※ 0.0 ~ 5.0 の範囲でかえることができます。
   0.0、1.0、1.5、1.8 とかえることができ、1.8 から 3.0
   までは 0.2 ずつ、3.0 から 5.0 までは 0.5 ずつかえる
   ことができます。
- ※ 画面の数値は目安として表示されています。 (単位:ミリメートル)
- ※ ぬい目のあらさは、布や糸によってかわります。
- ※ 4.5 と 5.0 のときの、返しぬいのぬい目のあらさは 4.0 になります。布や糸によりかわりますので、目安とし てください。

![](_page_31_Picture_0.jpeg)

![](_page_31_Picture_1.jpeg)

![](_page_31_Picture_2.jpeg)

![](_page_31_Picture_3.jpeg)

![](_page_31_Figure_4.jpeg)

|--|--|--|

# ● 直線ぬい

★ 自動返しぬい

ミシンのセット

(1) 模様番号:
 (2) 糸調子ダイヤル
 (3) 押さえ:
 (3) 抑さえ:

ぬい始めとぬい終わりに、しっかりしたほつれ止めを自 動的に行います。

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に返しぬい をしたあと、直線ぬいをします。

ぬい終わりにきたら、返しぬいボタン①を一度押します。 数針返しぬいをしてミシンは自動的に止まります。

#### ★ 自動止めぬい

#### ミシンのセット

① 模様番号:	03
② 糸調子ダイヤル	オート
③ 押さえ:	基本押さえ A

ぬい始めとぬい終わりに、目立たない止めぬいを自動的 に行います。

ミシンをスタートすると、ぬい始めに自動的に止めぬい をしたあと、直線ぬいをします。

ぬい終わりにきたら、返しぬいボタン①を一度押します。 止めぬいをしてミシンは自動的に止まります。

★ 三重ぬい

#### ミシンのセット

① 模様番号:	05
② 糸調子ダイヤル	オート
③ 押さえ:	基本押さえ A

伸縮性のある強いぬい目です。

ズボンの股、袖の付け根などや、特に強度が必要な場所 の補強に使用します。

![](_page_32_Picture_0.jpeg)

![](_page_32_Picture_1.jpeg)

![](_page_32_Picture_2.jpeg)

#### ★ 伸縮ぬい

#### ミシンのセット

 ① 模様番号: 06
 ② 糸調子ダイヤル オート
 ③ 押さえ: 基本押さえ A

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。 また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、 トリコットなどのぬい合わせに便利です。

※ 模様の右に書かれている「L」は、ぬい目の幅をかえ たときの基準位置を示しています。

「L」は左針位置を基準(固定)にした模様で、ぬい目 の幅をかえたときに、左針位置を基準(固定)に右に 幅が変化します。(32ページ参照)

# ● ジグザグぬい

#### ミシンのセット

- ① 模様番号:
- ② 糸調子ダイヤル オート
   ③ 押さえ: 基本押さえ A
- ジグザグぬい(模様 樥 )で「基本押さえ A」を使用す

07

る場合、試しぬいをして、ぬい縮みがでないよう、ぬい 目の幅やぬい目のあらさを調節します。

うす地の場合、ぬい目の幅 3.0、ぬい目のあらさ 2.0 が目 安です。

ジグザグぬいは、たち目かがりや、ボタン付けなどいろ いろなぬい方ができます。

※ 伸縮性のある布(ニット、ジャージー、トリコットな ど)には芯地を貼るときれいにぬえます。

![](_page_33_Figure_0.jpeg)

![](_page_33_Figure_1.jpeg)

# ★ ぬい目の幅をかえるとき

初期状態のぬい目の幅は、3.0です。

0.0 ~ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。 (単位:ミリメートル、目安です。)

- ぬい目の幅調節ボタン①の「+」を押すと、値が大きくなり、中針位置を基準(固定)に左右に幅が広くなります。
- ぬい目の幅調節ボタン①の「-」を押すと、値が小 さくなり、中針位置を基準(固定)に左右に幅がせま くなります。
- ※ 模様の右に書かれている「M」は、ぬい目の幅をかえ たときの基準位置を示しています。 「M」は中針位置を基準(固定)にした模様で、ぬい 目の幅をかえたときに、中針位置を基準(固定)に左 右に幅が変化します。

# ぬい目の幅の基準位置

早見板や模様ダイレクト選択ボタンのイラストの右 に書かれている「L」、「M」、「R」は、ぬい目の幅を かえたときの基準位置です。

- •「L」: ぬい目の幅をかえたとき、左針位置を基準 (固定)に右に幅が変化します。
- •「M」:ぬい目の幅をかえたとき、中針位置(中央) を基準(固定)に左右に幅が変化します。
- 「R」: ぬい目の幅をかえたとき、右針位置を基準 (固定)に左に幅が変化します。

#### ★ ぬい目のあらさをかえるとき

初期状態のぬい目のあらさは、1.5 です。

- ぬい目のあらさ調節ボタン①の「+」を押すと、値 が大きくなり、ぬい目があらくなります。
- ぬい目のあらさ調節ボタン①の「-」を押すと、値が小さくなり、ぬい目が細かくなります。
- ※ 0.2 ~ 5.0 の範囲でかえることができます。
   0.2 ~ 1.0 までは 0.1 ずつ、1.0 から 5.0 までは 0.5 ず つかえることができます。(単位:ミリメートル、 目安です。)

![](_page_34_Figure_0.jpeg)

ジグザグぬいのたち目かがり

# ミシンのセット

- ① 模様番号:
- ② 糸調子ダイヤル: オート
  - たち目かがり押さえC

07

※ 押さえの画面表示は、基本押さえAになっていますが、 たち目かがりのときは、たち目かがり押さえCを使 用します。

布端のほつれ止めとして広く利用します。 布端を押さえのガイドにあててぬいます。

# ∕҈ 注意

たち目かがり押さえを使用する場合、ぬい目の幅は 4.5 以下では使用しないでください。針が押さえの針 金にあたり、けがの原因となります。

# ● つくろいぬい

# ミシンのセット

- ① 模様番号:
- ② 糸調子ダイヤル: オート
- 基本押さえ A ④ ぬい目のあらさ:  $0.3 \sim 0.5$

80

ほつれている部分のぬい合わせをします。

- □ ぬい目のあらさを [0.3] ~ [0.5] で、ほつれた部分 の布端をつき合わせてぬいます。
- 2 手順 1 でぬったぬい目の両側をぬいます。
- ※ ほつれ具合によって、裏側から別布をあててぬいます。
- トリコットぬいのたち目かがり

# ミシンのセット

① 模様番号: 80 ② 糸調子ダイヤル: オート ③ 押さえ: 基本押さえ A

しわになりやすい合成せんいや、伸縮性布地(ニットなど) のかがりぬいに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい 目近くで切り落とします。

33

![](_page_35_Figure_0.jpeg)




(1)

(2)

3

● ゴムひも付け

ミシンのセット

(1) 模様番号:
 (2) 糸調子ダイヤル:
 オート
 (3) 押さえ:
 基本押さえ A

ゴムひもを、布の裏側にまち針で止めます。 ゴムひもは、伸ばした状態で等間かくに数カ所まち針でと めます。

ゴムひもを布と同じ長さに両手で伸ばしながら、ゴムひ もの上をぬいます。

まち針の手前をぬう直前で一度ミシンを止め、まち針を 抜いてから再びぬいます。

- ボタンホール
- ★ ボタンホールの種類

① スクエアボタンホール(両止め)

普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホー ルです。

② キーホールボタンホール(鳩目穴)

普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールで す。

大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

③ 片ラウンドボタンホール

普通の布からうすい布に使います。ブラウス、子供服な どでよく使われます。

- ※ ボタンホール押さえ R にボタンをセットするだけで、 最適な長さのボタンホールをぬうことができます。 ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホー ル押さえ R のボタン受け台にはさみ込むと自動的に 決まります。
- ※ ボタンの直径が 1.0 ~ 2.5 cm までのボタンホールが できます。
- ※ボタンホールが完成すると、ほつれ止めの止めぬいをして、ミシンは自動的に止まります。ミシン停止時の 針位置設定が、「下位置停止」になっていても、針は 上の位置で止まります。

#### <u>ボタンホールの注意事項</u>

- 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼っ てください。
- 使用する布の切れ端などで試しぬいをして、正しく ぬえることを確認してください。
- ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク(しるし) を付けてください。





### ● スクエアボタンホールのぬい

ミシンのセット

① 模様番号: 19 ② 糸調子ダイヤル : オート ③ 押さえ:

- ボタンホール押さえ R
- 1 ボタン受け台①をうしろに引き、ボタンをのせます。 ボタン受け台①をもどし、ボタンをはさみます。
  - ※ ボタンホールの幅は、一般的なボタンの種類に合 わせてあります。 厚いボタンなどは、布の余分な部分に試しぬいを してください。 試しぬいをしてみて、ボタンがボタンホールに入り にくい場合、ボタン受け台①を少しうしろに引き、 ボタン受け台①とボタンのあいだにすきま②をあ けると、その分大きなボタンホールができます。
- 2 上下停針ボタンで針をあげた状態にします。 押さえホルダーのみぞ③と押さえのピン④を合わ せ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセット します。

③ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、 横に引き出します。 布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの 位置⑤に針をさして押さえ上げをさげます。







⑥ ボタンホールは下記の順番でぬいます。

- [1] 下ぬい⑪をし、左側のラインタック⑫をぬいます。
- [2] 下ぬい <sup>(3)</sup> をし、かんぬき <sup>(4)</sup> と右側のラインタック <sup>(5)</sup> をぬいます。
- [3] かんぬき <sup>(i)</sup> 止めぬいを行って、ミシンは自動的 に止まります。
- ※ ボタンホールの重ねぬいをする場合、そのままミシンをスタートさせぬいます。

# <u>ボタンホール重ねぬい</u>

ボリューム感のあるボタンホールができます。 一度目のボタンホールをぬい終わったら押さえ上げ をさげたまま、ミシンをスタートさせます。 自動的に重ねぬいをします。

- ※ ボタンホールの重ねぬいで送りがつまるときは、 ぬい目のあらさを大きくしてぬってください。
- ⑦ ぬい終わったら、ボタンホール切りかえレバー⑥を 止まるまでいっぱいに押しあげてもどします。
- ⑧ かんぬきの内側にまち針 ⑰ をわたし、シームリッパー 1 で左右のラインタックの糸を切らないよう、ボタン穴を開けます。

# ★ ぬい目の幅(ボタンホールの幅)をかえる

ぬい目の幅調整ボタン ② で、ボタンホール全体の幅をか えることができます。 初期の状態のぬい目の幅は 5.0 ① です。

- •「+」を押すとボタンホール全体の幅が広くなります。
- 「-」を押すとボタンホール全体の幅がせまくなります。

※ 2.5 ~ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。





### ● ボタンホール安定板セットを使用する場合

厚い布の段差部分や、安定して布送りできない布などを ぬう場合、ボタンホール安定板セット(安定板ホルダー②、 安定板①)を使用すると、布をスムーズに送りぬうこと ができます。

ボタンホール押さえ③の手前から安定板ホルダー②
 を、みぞ④にそわせながら差し込みます。

- ② 安定板ホルダー ② の取り付け穴 ⑥ に安定板のホル ダーガイド部分 ⑤ を差し込みます。
- ③ ボタンホール安定板セットを組み付けたボタンホール 押さえをミシンに取り付けます。
- ④ 押さえ上げをあげ、上糸 ⑧ を押さえの穴 ⑦ から下に 通し、安定板ホルダー ② と安定板 ① のあいだから横 に引き出します。
  - ※ 上糸 ⑧ を安定板ホルダー ② と安定板 ① のあいだ から引き出す場合、下記の方法で行うと簡単に引 き出せます。

#### 上糸の引き出し方

安定板ホルダーと安定板のあいだに布を入れ、上糸の 端を横にして指で押さえながらはずみ車を手で手前 に1回転まわして針を上にあげます。 布を横に取り出すと、1針ぬった上糸が安定板ホル ダーと安定板のあいだに引き出されます。 ※上記方法で糸を引き出した場合、ぬう前にもう一 度ボタンホール模様を選び直します。

- 5 上糸 ⑧ を横に引き出した状態で、安定板 ① の上に 布 ⑨ を入れます。
  - ※ ぬい方はスクエアボタンホールと同じです。 (36~39ページをごらんください。)







# ● つくろいぬい(ダーニング)

#### ミシンのセット

- 1 模様番号: 22
   2 糸調子ダイヤル オート
   3 押さえ: ボタンホール押さえ R
- ボタンホール押さえ R を取り付け、ボタン受け台① をいっぱいに引き出します。
- 2 上糸を押さえの穴②から下へ通し、横に引き出します。
- ③ ぬい始めの位置 ③ に針をさし、押さえをさげます。

④ ミシンをスタートさせ、自動的に止まるまでぬいます。

- ※ 自動的に止まるまでぬうと、最大約 2 cm の長さをぬうことができます。(幅は約 0.7 cm) 2 cm より短い長さでぬう場合、下記「2 cm より 短い長さでつくろいぬいをする場合」をごらんく ださい。
- 5 布の向きをかえ、繰り返しぬいます。

# 【2 cm より短い長さでつくろいぬいをする場合】

必要な長さ① までぬい、返しぬいボタン ② を押します。 押した位置から折り返しますので、自動的にミシンが止 まるまでぬいます。

- ミシンはぬった長さ(サイズ)を記憶しています。
- ※別の場所に同じ長さのものをぬう場合、布の位置をか えてミシンをスタートさせます。 返しぬいボタンを押さなくても、同じ長さのつくろい ぬいをして、ミシンは自動的に止まります。
- ※ つくろいぬいの長さをリセットするには、一度ほかのス テッチを選び、再度つくろいぬいを選びます。

#### 【つくろいぬいの形の整え方】

つくろいぬい(ダーニング)のぬい始め(左側)とぬい 終わり(右側)の高さがそろわない場合、ぬい目のあら さ調節ボタン ② で下記のように調整します。

初期の状態は「d5」①です。

- 左側が右側より低い場合、「-」を押します。 (「d1」~「d4」)
- 右側が左側より低い場合、「+」を押します。 (「d6」~「d9」)









● アイレット

ミシンのセット

- 1 模様番号: 24
   2 糸調子ダイヤル: オート
   3 押さえ: サテン押さえ F
- アイレットはベルトの穴などに使用します。
- ※ 模様 24 F は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬ いをして、ミシンは自動的に止まります。 ミシン停止時の針位置設定が「下位置停止」になって いても、針は上の位置で止まります。
- 1 ぬい始めの上糸①を横に引き出しておきます。
- 2 ぬい始めの位置②に針をさし、押さえ上げをさげます。
- ③ ミシンをスタートさせ、自動的に止まるまでぬいます。
- ※ ぬい目の内側は、ポンチ(市販品)などで穴を開けます。ポンチの穴の大きさは、直径 0.25 cm 以下のものを使用します。

#### 【アイレットの形の整え方】

布などによってアイレットの形がくずれる場合、ぬい目 のあらさ調整ボタン ② で下記のように調整します。 初期の状態は「L3」① です。

- ぬい目にすきまがある場合、「-」を押します。 (「L1」~「L2」)
- ぬい目が重なる場合、「+」を押します。 (「L4」~「L5」)
- ※「L1」~「L5」の範囲で調節できます。







ぬいしろ:2 cm

#### ● ファスナー付け

ミシンのセット

- ① 模様番号:
- ② 糸調子ダイヤル:
- ③ 押さえ :

基本押さえ A ファスナー押さえ E

#### 【ファスナー押さえの付け方】

押さえホルダーのみぞ① とファスナー押さえ E のピン② を合わせて取付けます。

01

オート

- (A): ファスナーのむしの左側をぬうときは、ファスナー 押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットします。
- (B): ファスナーのむしの右側をぬうときは、ファスナー 押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。

#### 【準備】

- ファスナーのあき寸法を確かめます。
   あき寸法はファスナー寸法に1 cm プラスした寸法 です。
- 2 しつけと地ぬいをします。
   布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
   地ぬいの部分は、基本押さえ A を使ってぬいます。
   あき部分は、しつけぬいをします。
  - ※ しつけは、ほどきやすいよう、ぬい目のあらさを 「5.0」、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。 しつけが終わったら、ぬい目のあらさおよび、糸 調子ダイヤルをもどします。(糸調子は「オート」)



【ぬい】

 はいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3 cm 出して、 アイロンで折り目をつけ、折り山をむし①のきわに あてます。

- ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーに セットします。
   むし①のきわを押さえの端(右側段部)にあて、あ き止まりからファスナーの左側をぬいます。
  - ※ ぬい始めに数針、ほつれ止めの返しぬいをします。



ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえ にあたらないように注意してください。 針があたると、けがの原因となります。

- ③ ファスナーの端から約5 cm ほど手前でミシンを止め、 針を布にさします。
   押さえ上げをあげてスライダー ② を向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
  - ※ ぬい終わりに数針、ほつれ止めの返しぬいをします。



- ④ ファスナーを閉じ、スライダー②を上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
   かぶせた布と台布③をしつけ④で止めます。
  - ※ しつけ ④ は、基本押さえ A を使用します。 しつけ ④ は、ほどきやすいよう、ぬい目のあらさ を「5.0」、糸調子ダイヤルを「1」にしてぬいます。 しつけ ④ が終わったら、ぬい目のあらさおよび、 糸調子ダイヤルをもどします。(糸調子は「オート」)

5 ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーに セットします。

上の布のあき止まりを 0.7 ~ 1.0 cm ほど返しぬいを してから、むしのきわを押さえの端(左側段部)にあ て、ファスナーの右側をぬいます。

# ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえ にあたらないように注意してください。 針があたると、けがの原因となります。

⑤ ファスナーの上側を5 cm くらい残したところでミシンを止めます。

針をさした状態で、押さえ上げをあげ、【準備】(45 ページ参照)でぬったしつけ糸⑤をほどき、スライ ダーを押さえの向こう側にずらします。

⑦ 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
 ぬい終わったら手順 ④ でぬったしつけ糸 ④ をほどきます。







### ● ボタン付け

#### ミシンのセット

① 模様番号:

- ② 糸調子ダイヤル:
- ③ 押さえ:

サテン押さえ F

07

オート

④ 送り歯ドロップつまみ: さげる位置

※ 押さえの画面表示は、基本押さえAになっていますが、 ボタン付けのときは、サテン押さえFを使用します。

### 【準備】

- 定規などで、ボタンの左右の穴の間かくをはかります。
   ぬい目の幅①をぬい目の幅調節ボタン②で、ボタンの左右の穴の間かくと同じ値に設定します。
- 送り歯をさげます。(16ページ参照)
- スピードコントロールつまみの位置をゆっくり側にして、ぬい速度をおそくします。

あとに行うと、ぬい始めに止めぬいが入りません。

- ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にま わしてボタンの左の穴に針をさします。 ボタンの左右の穴が真横にくるようにボタンを置き、 押さえ上げをさげます。
  - ※ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針が折れる恐れがあります。
- 2 はずみ車を手で手前にまわすと、左側の穴を数回ぬったあと針が右側に移動します。
   針がボタンにあたらず、ボタンの右の穴に入ることを確認します。

※ はずみ車を手前にまわすと、最初に止めぬいを行 うために左側の穴だけを数回ぬいます。

# <u> 注</u>意

必ず針がボタンの穴の左右におりることを確認して ください。ボタンに針があたると針が折れ、けがの 原因となります。

- ③ ミシンをスタートし、10 針くらいぬったら止めます。
- ④ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を 10 cm ~ 20 cm 残して切ります。
  - ※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってく ださい。
- ⑤ ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、 上糸と下糸を結んでから切ります。
- ※ ぬい終わったら送り歯ドロップつまみを送り歯をあげ る位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送 り歯があがることを確認します。





● ギャザー

ミシンのセット

- 1 模様番号:
   2 糸調子ダイヤル:
- ③ 押さえ: 基本押さえA
   ④ ぬい目のあらさ: 5.0
- 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約 10 cm ほど引き出しておきます。

01

- ※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、23ページの「下 糸を針板の上に引き出す場合」をごらんください。
- ② 糸調子を「1」、ぬい目のあらさ「4.0」~「5.0」に設定します。
   図のようにでき上がり線をはさんで 0.5 ~ 0.7 cm の間かくで 2 本の直線を平行にしつけぬいをします。
   押さえ上げをあげて、布を引き出し、上糸と下糸を5 cm くらい残して切ります。
  - ※ 糸は、糸切りボタンで切らないでください。 ミシンの面板に付いている糸切りで切ります。 (27 ページ参照)
- ③ ぬい始めの糸を結んでから、ぬい終わりの下糸を2本 一緒に引いて、布を縮めます。
- ④ ぬい終わりの糸をそれぞれ結び、ギャザーを整えてか らアイロンをかけます。

- 5 ギャザーを布にぬい付けます。 糸調子を「オート」、ぬい目のあらさを「2.4」(初期の値) にもどし、でき上がり線をぬって、しつけを取ります。
- ※ しつけを取ったときの針穴が気になる場合、でき上がり線の上側に2本しつけをして、ギャザーを寄せます。







● シェルタック

ミシンのセット
① 模様番号: 25
② 糸調子ダイヤル 6~8
③ 押さえ: サテン押さえ F

トリコットなど、うすい布に使用します。

図のように布を折り、折り目にステッチします。

- 1 布をバイヤスに2つ折りにします。
- 2 右側の針位置①が布の折り山のきわ(外側)②になるようにぬいます。
   布をひらき、アイロンで山を片側にたおします。
- ※ 試しぬいをして、シェルタックの山がきれいになるよう糸調子を調節します。
- ※ シェルタックをいくつか並べてぬう場合、最低 1.5 cm あいだをあけてください。





● アップリケ

### ミシンのセット

① 模様番号:

(2) 糸調子ダイヤル:
 ③ 押さえ:

④ 押さえ圧調節ダイヤル:

13、26 オート サテン押さえ F 1 ~ 3

アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。 模様の針位置が右側のときに、アップリケ布 ① の縁の外 側 ② に針がささるようにぬいます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、アップリ ケ布の外側に針がささった状態で、ミシンを止めます。 針を布にさしたまま押さえ上げをあげ、方向をかえる ときれいに仕上がります。

# 【ぬい目の幅をかえるとき】

ぬい目の幅は、ぬい目の幅調節ボタン④で調節します。 初期の状態は「3.5」③です。

- ぬい目の幅調節ボタンの「+」を押すと、値が大きくなり、中針位置(5)を基準(固定)に左右に幅が広くなります。
- ぬい目の幅調節ボタンの「-」を押すと、値が小さくなり、中針位置 ⑤を基準(固定)に左右に幅がせまくなります。
- ※ 模様の右に書かれている「M」「R」は、ぬい目の幅を かえたときの基準位置です。







③ ドロンワークにする部分の織り糸を全部抜き取り













● ファゴティング

ミシンのセット

- ① 模様番号: 07 ② 糸調子ダイヤル: オート ③ 押さえ: サテン押さえ F 32 F
- ※ そのほか、模様番号  $\hat{\mathbf{x}}$ が使えます。

2枚の布のすき間をあけて、つなぎ合わせることができ ます。

布の端を 1.5 cm ほど裏側に折り、アイロンをかけます。 布端と布端の間かくを 0.3 ~ 0.4 cm ① あけて、下にあ て紙②をします。

布の表から間かくの中央を中心にしてぬいます。 あて紙を取ります。

● キャンドルウィック

**29** F

#### ミシンのセット

① 模様番号: ② 糸調子ダイヤル: ③ 押さえ:

サテン押さえ F **30** F

29、30

 $5 \sim 8$ 

 $\mathbf{i}$ と 模様番号 はキャンドルウィックです。 \* Ф

糸調子を「5」~「8」に設定してぬいます。

● スカラップ

# ミシンのセット

① 模様番号: 18 ② 糸調子ダイヤル: オート ③ 押さえ:

基本押さえ A

布の表から布端を1cm くらい残してぬいます。 糸を切らないように外側の布を切り落とします。







(+)

図 1

(-)

図2

正しい形

#### 32 F Â の例) 【模様の形の整え方】(模様

• 図1のように模様がつまっているときは、送り調整ね じを「+」方向にまわします。

が

 図2のように模様が伸びているときは、送り調整ねじ を「一」方向にまわします。



2

# ◎ミシンのお手入れ

### ● かまと送り歯の掃除

# ⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源 プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。
   感電・火災・けがの原因となります。

電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して、針を上 にあげ、電源スイッチを切ります。 電源プラグをコンセントから抜きます。

針と押さえホルダーを外し、角板を外してボビンを取り 出します。

- しめねじ① 2 個をドライバーで外し、針板② を外します。
- 2 内がま ③の手前を上に引きながら外します。
- ③ 内がま ③ を付属のミシンブラシ ④ で掃除し、内がま
   全体をやわらかい布で軽くふきます。
- ④ 送り歯 ⑤、糸切り部 ⑦ のごみをミシンブラシ ④ で
   手前に落とし、さらに外がま ⑥ を掃除します。
- ⑤ 外がま⑥の中央部をやわらかい布で軽くふきます。
- ※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、 掃除機などで吸いとってください。

#### ● 内がまと針板の組み付け

 内がま①の凸部②を回転止め③の左側におさめる ようにして、内がまを取り付けます。

- しめねじ 5 2 個をドライバー ④ で針板に取り付けます。
- ※ ボビン、角板、押さえ、針を取り付けます。

2

# ◎こんなときには

# ● メッセージ画面が表示された場合

禁止音や警告音とともに下記メッセージ画面が表示された、または表示されている場合、直し方にしたがってください。

表示	原因	直し方				
	<ol> <li>フットコントローラーを接続した状態でスタート/ ストップボタンを押したときに表示されます。</li> <li>フットコントローラーが壊れているときに表示され ます。(フットコントローラー表示が点滅します。)</li> </ol>	スタート/ストップボタン を使用する場合、フット コントローラーの接続を 外します。 お買い上げの販売店へご 連絡ください。				
ĨĨ / <u>3</u> .5 <del>2</del> .4	押さえがあがった状態でミシンをスタートさせたときに 表示されます。					
8	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示され ます。	糸巻き軸を元の位置(左 側)にもどすと表示が消 えます。				
5.0 0.4	ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホール を少しぬうと表示されます。 (模様番号表示が「bL」表示にかわり、ボタンホール切 りかえレバー表示が2~3秒点滅します。)	ボタンホール切りかえレ バーをさげて、再スター トします。				
<b>L</b> o <u>3</u> .5 <del>2</del> .4	安全装置の作動によりミシンモータが緊急停止したとき に表示されます。	緊急停止後 15 秒間ミシン は動きません。 糸がらみなどがある場合、 電源スイッチを切り、糸 を取り除いてください。				
(E1-E7)	ミシンが正しく作動しなかった場合に表示されます。	電源スイッチを切り、糸 がらみなどがないか確認 します。 直らない場合には、お買 い上げの販売店へご連絡 ください。				

### ● ブザー音の種類

ブザー音	内容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシンが正しく作動しなかった場合の警告音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了などの終了音です。

※ 正しい操作をしたときの受け付け音は鳴らなくすることができます。24 ページの「ブザー音の設定」をごらん ください。

調子が悪い場合	原因	直し方		
上糸が切れる	<ol> <li>上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみつ いている。</li> <li>上糸調子が強すぎる。</li> <li>針が曲がっていたり、針先がつぶれている。</li> <li>針の付け方がまちがっている。</li> <li>ぬい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。</li> <li>糸がかまなどにからまっている。</li> <li>針に対して糸が太すぎるか細すぎる。</li> <li>糸こまに上糸が引っかかっている。</li> </ol>	<ul> <li>21 ページ参照</li> <li>14 ~ 15 ページ参照</li> <li>17 ページ参照</li> <li>17 ページ参照</li> <li>23 ページ参照</li> <li>60 ページ参照</li> <li>17 ページ参照</li> <li>17 ページ参照</li> <li>糸こま押さえを付ける</li> </ul>		
下糸が切れる	<ol> <li>下糸の通し方がまちがっている。</li> <li>内がまの中にごみがたまっている。</li> <li>ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。</li> <li>下糸の巻き方がゆるい。</li> </ol>	20 ページ参照 60 ページ参照 ボビンを交換する 19 ページ参照		
針が折れる	<ol> <li>針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>針止めねじのしめつけがゆるんでいる。</li> <li>ぬい終わったとき布を手前に引いている。</li> <li>布に対して針が細すぎる。</li> <li>模様に合った押さえを使用していない。</li> </ol>	17 ページ参照 17 ページ参照 布を向こう側に出す 17 ページ参照 指定の押さえに交換する		
ぬい目がとぶ	<ol> <li>針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>布に対して針と糸が合っていない。</li> <li>伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。</li> <li>上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>品質の悪い針を使用している</li> </ol>	<ol> <li>17ページ参照</li> <li>17ページ参照</li> <li>17ページ参照</li> <li>21ページ参照</li> <li>針を交換する</li> </ol>		
ぬい目がしわになる	<ol> <li>上糸調子が合っていない。</li> <li>上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にから みついたりしている。</li> <li>布に対して針が太すぎる。</li> <li>ぬい目のあらさが布に対してあらすぎる。</li> <li>うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。</li> <li>押さえ圧が合っていない。</li> </ol>	<ul> <li>14~15ページ参照</li> <li>20、21ページ参照</li> <li>17ページ参照</li> <li>ぬい目を細かくする</li> <li>芯地を貼る</li> <li>13ページ参照</li> </ul>		
ぬいずれがおこる	1. 押さえ圧が合っていない。	13 ページ参照		
布送りが うまくいかない	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	60 ページ参照 ぬい目をあらくする 16 ページ参照		
ぬい目に 輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	14 ~ 15 ページ参照 17 ページ参照		
	<ol> <li>電源のつなぎ方がまちがっている。</li> <li>かまに糸やごみがたまっている。</li> <li>ボビンに糸がからまっている。</li> <li>押さえ上げがさがっていない。</li> <li>下糸を巻いたあと、糸巻き軸が糸巻きの位置(右側)にある。</li> <li>上糸が外れ、ボビンにからまって(ガチャガチャ音がする)いる。</li> </ol>	6~7ページ参照 60ページ参照 ボビンの糸を確認する 12ページ参照 19ページ参照 上糸かけを確認する [天秤の外れ確認]		
ミシンが 動かない	<ul> <li>7. 上糸が天秤から外れ、ほかの部品にからまっている。</li> <li>天秤 面板 ・ ・ ・</li></ul>	上糸かけを確認する [からまっている糸の取り方] ① 電源スイッチを切る ② 面板を開ける ③ からまっている糸をとる ④ 上糸をかけ直す (21 ページ参照) ⑤ 面板をしめる フットコントローラーを 外す		

調子が悪い場合	原因	直し方
うすい布、伸縮性の 布が食い込む	<ol> <li>布に対して針と糸があっていない。</li> <li>左針位置でぬっていない。</li> </ol>	17 ページ参照 左針位置でぬう
布裏で糸がからまる	<ol> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。         (手順 ② の図)     </li> </ol>	<ul> <li>[からまっている糸の取り方]</li> <li>① 電源スイッチを切る</li> <li>② 押さえ上げと針をあげ、 ハサミで布裏の糸を切る</li> <li>③ 針板を外す (60ページ参照)</li> <li>④ ボビン、内がまを外し、 からまっている糸を切る (18、60ページ参照)</li> <li>⑤ ボビン、内がま、針板 を取り付ける (18、60ページ参照)</li> <li>⑥ 上糸をかけ直す (21ページ参照)</li> </ul>
糸切りボタンで うまく糸が切れない	1. 使用している糸が太すぎる。 2. 糸がからまっている。	27 ページ参照 60 ページ参照
上糸が抜ける	<ol> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. ぬい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえていない。</li> </ol>	21 ページ参照 23 ページ参照
かまに糸がからまる	<ol> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. かまにキズがある。</li> <li>3. 内がまの入れ方がまちがっている。</li> </ol>	21 ページ参照 かまの交換 60 ページ参照
音がして 糸がからまる	<ol> <li>1. 天秤の糸穴に糸が入っていない。</li> <li>2. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> </ol>	21 ページ参照 21 ページ参照
フットコントロー ラーを踏み込んでも 動かない	<ol> <li>画面表示にフットコントローラーの表示がでないうちにフットコント ローラーを踏んだ。</li> <li>フットコントローラーの表示</li> <li>フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。</li> </ol>	フットコントローラーの表 示が出たあとにフットコン トローラーを踏む 7 ページ参照
糸通しができない	<ol> <li>1. 針が上にあがっていない。</li> <li>2. 糸が糸通しのみぞに入っていない。</li> <li>3. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> </ol>	22 ページ参照 22 ページ参照 17 ページ参照
糸通し後、糸通しレ バーが一番上までも どらない	1. すべりにくい糸を使っている。	糸通しレバーを、手でゆっ くり上までもどす
ボタンホールが うまくぬえない	<ol> <li>布に対してぬい目のあらさが合っていない。</li> <li>伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。</li> <li>ボタンホール切りかえレバーがさがっていない。</li> </ol>	39 ページ参照 伸びない芯地を貼る 37 ページ参照
音が高い	<ol> <li>かまの部分に糸くずが巻きこまれている。</li> <li>送り歯にごみがたまっている。</li> <li>電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音がでる。</li> </ol>	60 ページ参照 60 ページ参照 異常ではありません
ぬい終わりに下糸が 二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して 針をあげる
ぬい目に下糸がでる	<ol> <li>ボビンのセットがまちがっている。</li> <li>糸こまのセットがまちがっている。</li> <li>上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>上糸調子が強すぎる。</li> <li>ジャノメのボビンを使用していない。</li> </ol>	20 ページ参照 18 ページ参照 21 ページ参照 14 ~ 15 ページ参照 18 、19 ページ参照
ぬい始めの糸がらみ	<ol> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. ぬい始めに上糸・下糸を押さえの下にそろえていない。</li> </ol>	21 ページ参照 23 ページ参照

調子が悪い場合	原因	直し方
ボビンに下糸がうま く巻けない	<ol> <li>1. 下糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. スピードコントロールつまみを「はやい」にしていない。</li> <li>3. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。         <ul> <li>(上に片寄っている) (下に片寄っている)</li> <li>(上に片寄っている) (下に片寄っている)</li> <li>(新整ねじを右にまわす) 調整ねじを左にまわす</li> </ul> </li> <li>調整ねじ</li> </ol>	20 ページ参照 8 ページ参照 調整ねじをまわす 注意: 調整ねじをまわす範囲は、 1 回転までにしてください。 部品が外れます。
模様がきれいにぬえ ない	<ol> <li>ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向が違う・下糸が内がまのばねに入っていない。)</li> <li>糸こまのセットがまちがっている。</li> <li>上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>上糸調子が強すぎる。</li> </ol>	20 ページ参照 18 ページ参照 21 ページ参照 14 ~ 15 ページ参照

- ※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モーターから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。
- ※ 長時間使うと画面や操作パネル付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上は とくに問題はありません。

◎模様一覧表

01 4	02 4	02 4	04 4		06 1	07 4	08 4	00 0	10 4	·
			04 A   <⊡			₹ M		MM		
11 M	<b>12</b> G }⇔	13 F	14 F	15 F	16 F	17 F	18 F	19 R	20 R	
21 R	22 R	23 F	24 F	25 F	26 F	27 F	28 A	<b>29</b> F ** c*⊃	30 F	
31 F	32 F	33 F	34 F	35 F	36 F ₩ ₩	37 F Ke Ke	38 F ∰	39 F	<b>40</b> ୮ ଜୁନ୍ତୁ	







		仕様			
使月	月 電 圧	100 V 50 Hz / 60 Hz			
消 費	青電 力	43 W			
外开	阝寸 法	幅 406 mm × 奥行 177 mm × 高さ 302 mm			
質	量	6.5 kg(本体)			
使	用 針	家庭用 HA X 1			
最高ぬい速度		毎分 820 針 フットコントローラー使用時 毎分 820 針			

#### 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けくだ さい。

#### 修理用部品の保有期間

● 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

#### 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、 修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。 ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  - 1)保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

#### お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

#### 蛇の目ミシン工業株式会社

住所 〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地 電話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル) 042 - 661 - 2600 受付 平日9:00~12:0013:00~17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ http://www.janome.co.jp 問合せフォームをご利用ください。

814-800-304 ①